

第568回 薬学研究科セミナー

修飾タンパク質作製を可能にする 最先端技術 ～生合成 vs 化学合成～

講師：林 剛介 博士
【名古屋大学大学院 工学研究科
生命分子工学専攻 准教授】

**日時：2020年2月4日（火）
17:00～18:30**

場所：薬学部大講義室



タンパク質は20種類のアミノ酸を基質として合成された後、メチル化やアセチル化、ユビキチン化など多様な翻訳後修飾を受けることで、その構造や機能、局在などが調節される。プロテオミクス解析の発展により、今日までに様々な翻訳後修飾が発見されてきたが、その生物学的意義については明らかになっていないものがほとんどである。翻訳後修飾の機能を生化学的に解析するには、特定の位置に特定の修飾を持つタンパク質の調製技術が必要不可欠となるが、このような「修飾タンパク質」はどのように作製するのだろうか？本セミナーでは、リボソーム翻訳によるタンパク質生合成系、およびペプチド固相合成によるタンパク質化学合成系を比較しながら最先端の修飾タンパク質作製技術について紹介する。さらに、両技術の応用研究や将来展望についても議論したい。

連絡先：稲田利文(遺伝子薬学分野)

TEL:022-795-6874 E-mail:toshifumi.inada.a3@tohoku.ac.jp